



暗記と紙の辞書

学問の秋となり、さらに前期期末の成績をもらい(笑)、ここは一つ勉強を…と思っている人もいるだろうか(疑問?反語?)。

前に書いたが、高校レベルの勉強では、きっちりやれば、君たちなら出来ないということはないと思う。ただ、きっちりやっていないだけのことであり、きっちりやる気が出ないだけのことなのであろう。

しかし、君たちが将来挑戦するであろう大学入試の合否は、実は得意科目で決まるのではなく、不得意科目で決まると言っても過言ではない。つまり、得意科目でどれだけ稼ぐかではなく、不得意科目でどれだけ失点しないで済むかの方がずっと重要なのである。だから、不得意科目があるのは仕方ないとして、その不得意度?をどれだけ減らせるかが重要なポイントとなるのである。

具体的にいえば、文系の数学、理系の古典である。「不得意でも仕方ないや…」と思わずに、できるだけ努力する必要がある。特に3年生になると、どうしても自分の進む分野の勉強(文系の古典、理系に数学)と、文系なら地歴公民、理系なら理科の勉強に時間が取られるようになってしまう。だからこそ、この1・2年生の時期に、文系の数学、理系の古典をそれなりのレベルに仕上げしておくことが、後々に大きな影響を及ぼすのである。

ところで、上の話の中に「英語」が出てこないが、それは当然のことながら、文系にしる理系にしる、英語が勝負を決するといっても過言ではないからである。英語が出来るこ

とを前提として、文系なら数学の不得意度を、理系なら古典の不得意度を減らしなさいと言っているわけで、実は英語で得点が思うように伸びていない人が、是非ともここは頑張らねばならないのである。

英語の勉強は、とにかく「暗記」。今やっている教材の全てを暗記する、つまり、教科書の本文は見なくても声を出して言えるし、見なくても全部ノートに再現できる…という風にするのである。大変なことは分かっているが、他にうまい方法などない。今さら「基礎からやり直す」などと迂遠なことはできないし、塾などに行って新しいテキストをもらったって、消化しきれはるはずがない。だから、とにかく目の前にある教材を全て暗記するのが一番確実だし、暗記すれば定期考査の得点もアップして赤点の危機からも脱出できるわけで、一番能率的なやり方なのである。

もう一つ、「電子辞書」を使うのを止めるというのがある。電子辞書は確かに便利だが、実は英語の力があるから使いこなせるのである。不得意な人はむしろ紙の辞書の方がよい。というのも、紙の辞書なら、重要語には広いスペースが割かれていることがページを開いただけで一目瞭然、「これは頑張らなきゃ!」と、無意識のうちに学習体制が整うのであるが、電子辞書の狭い画面ではそれが分からないから、平板な勉強になってしまうのである。学習にメリハリをつける上でも、周辺情報を把握する上でも、紙の辞書を使うことを強く勧めたい。今なら間に合うぞ!